第3次

浜松市多文化共生都市ビジョン

（詳しく説明したもの）

2023年2月

浜松市
HAMAMATSU CITY

目　次

第1章　第3次ビジョン＜＝将来 どんなまちに したいか 考えたもの＞を決めることについて

1. 第3次ビジョンを つくる 理由 …… 1
2. 第3次ビジョンの役割と 計画の 期間 …… 2

第2章　環境について よく 考える

1. 第2次ビジョンで よかったこと …… 3
2. 外国人の 生活と 今の 問題
   (1) 社会や 経済の 変化 …… 5
   (2) 国の 考え方 …… 6
   (3) 浜松市の 今の 様子 …… 8
   (4) 国内の 他の まち 考え方 …… 14
   (5) 他の 国の 考え方 …… 14
3. これから どうなっていくか …… 15

第3章　第3次ビジョンの 内容

1. 将来 なりたい 姿 …… 17
2. 進め方・やり方 …… 18
3. 計画を まとめたもの …… 19
4. とても大切な 計画 …… 20
5. 進めるための 計画
   (1) お互いを 認めて、仲良く、一緒に つくる まち（協働） …… 22
   (2) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 新しい 文化や 役に立つことを つくる まち（創造） …… 25
   (3) みんなが 気持ちよく 生活できるまち（安心） …… 29
6. 全部の 計画の 内容 …… 34

＜言葉の 説明＞ …… 37

第1章　第3次ビジョン＜＝将来 どんなまちに したいか 考えたもの＞を つくることについて

1 第3次ビジョンを つくる 理由

浜松市は、2012年度＜＝その年の 4月から 次の年の 3月まで＞に「浜松市 多文化共生 都市ビジョン」を つくりました。そして、浜松市が 多文化共生＜＝いろいろな人が 相手の 文化を よく 知って、仲良く 生活する＞の まちに なるように、いろいろなことをしてきました。2018年度には 最初の ビジョンを 少しだけ 変えて、「第2次 浜松市 多文化共生都市ビジョン」（この後は「第2次ビジョン」と 書きます）を つくりました。そして、浜松市は、外国人も 仲間だと 思って、みんなが 元気に 仕事や 生活が できる まちを つくろうとしてきました。

第2次ビジョンの 間、日本は 出入国在留管理庁＜＝日本に 来たり、自分の国に帰ったりする人を 管理するところ。日本に 住む 外国人の 管理も します＞を つくったり、新しい 在留資格＜＝日本で 生活するための 資格＞を つくったりしました。それで、日本に 住む 外国人が 増えました。でも、2019年の 終わりから 新型コロナウイルスが 増えて、日本に いる 外国人の 生活は とても 大変になりました。日本から 出たり 入ったりすることも 難しくなりました。浜松市では、外国人は浜松市に 長く 住んでいます。そして、いろいろな 国から 来た 外国人が 増えました。外国人が 持つ 在留資格の 種類も 増えました。

日本は、外国人が 日本に 住みやすくなるように いろいろなことをしています。「日本語教育の 推進に 関する 法律＜＝日本語の 勉強をしやすくする 法律＞」を つくったり、「外国人との 共生社会の 実現に 向けた ロードマップ＜＝外国人と 一緒に 生活する 社会を つくるための 計画＞」を 発表したりしました。今は、社会全体に SDGs（持続可能な開発目標）※の 考え方が 広がっています。いろいろな人が 一緒に 生活できる 社会を つくろうとしています。浜松市も、外国人を 手伝ったり、みんなが 住みやすい まちを つくるために いろいろなことをしています。もっと よくするために、「第3次 浜松市 多文化共生都市ビジョン」（この後は「第3次ビジョン」と 書きます）を つくります。

※が 付いている 言葉（同じ 言葉が 何回も 出る場合は、初めて 出たときに つきます）は「言葉の説明」に 書いてあります。

2 第3次ビジョンの 役割と 計画の 期間

(1) 第3次ビジョンの 役割

このビジョンは、浜松市で 一番 大切な 計画の「浜松市 総合計画（2015年3月に決めました)」の中の 一つです。そして、「市民と 共に 未来を つかむ 都市経営」を 進めるための 計画です。

浜松市には 多文化共生と 関係がある 計画が いろいろ あります。第3次ビジョンが その いろいろな 計画にも 合うように つくっています。

(2) 計画の 期間

このビジョンの 計画の 期間は、2023年度から 2027年度までの 5年間です。

でも、途中で 計画を 変えるかもしれません。社会や 経済の 状態が 変わったり、多文化共生について 国の 考え方が 変わったりした場合です。

第2章　環境について よく 考える

第3次ビジョンを つくるとき、これから どうしたら いいかを 考えます。そのために 第2次ビジョンで よかったことや、多文化共生についての 考え方や、今の問題を 整理します。

1 第2次ビジョンで よかったこと

【協働】【創造】【安心】の 3つの 計画を 一つずつ 見て、どんなことをしたか 思い出します。

協働　計画の 1つ目：お互いを 認めて、仲良く、一緒に つくる まち

自治会＜＝その地域に 住む 人たちが つくる グループです。その地域の 問題を みんなで 考えたり、お互いに 助けたりします＞などの 地域の グループに 外国人も 参加するように 誘いました。それから、国や 文化の 違いを 理解するための 勉強会をしたり、ユニバーサルデザイン＜＝できるだけ たくさんの 人が 使うことが できる デザイン＞や 人権＜＝人が 生まれたときから 持っている 権利＞についての 教育も しました。

浜松市は「多文化共生センター」や「外国人 学習支援センター＜＝外国人が日本語を 勉強を するところ＞」で いろいろな 国の人たちが 交流＜＝他の人と話したり、一緒に なにかを やること＞する 機会を つくりました。今まで 7,500人以上の人が 参加しました。新型コロナウイルスに かかる人が 増えていたときは、イベントの 内容を 変えたり、参加する人を 少なくしたりしなければなりませんでした。そんな中でも イベントが できるように、いろいろな 方法を 考えました。

「多文化共生推進協議会＜＝多文化共生を 進めるための 会議＞」や「外国人市民共生審議会＜＝外国人に 関係がある 計画について 調べたり、良いかどうか話したりする 会議＞」を 何回か しました。会議に 参加した人たちが 情報や 意見を 交換して、浜松市全体で 多文化共生について 考えました。

創造　計画の 2つ目：いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 新しい 文化や 役に立つことを つくる まち

2011年度から、学校に 行っていない 外国人の 子供を なくす 仕事を 続けてきました。小学校や 中学校では、外国人の 子供の 生活や 勉強を 手伝う人を 学校に 入れています。それから、高校や 大学や 会社が 協力して、いろいろな セミナー＜＝みんなが 知りたい テーマの 勉強会＞をしたり、成功している 若い 外国人を 紹介したりしてきました。若い 外国人が 地域で 活躍できるようにするためです。

いろいろな 文化を 知って、新しい 文化を つくるために、多文化共生に 関係がある イベントをしました。イベントに 参加した人は 95%以上が 満足しています。浜松市の 団体が 多文化共生の 仕事をするときに お金を 出して、その仕事をしやすくしました。そして、イベントなどの 情報も しっかり 伝えて、市民が 多文化共生の 考えを 持つようにしてきました。

2020年度から 外国人雇用サポートデスク＜＝外国人を 雇うことを 助ける事務所＞を つくりました。外国人に 働いてほしい 浜松市の 会社と、浜松市で 働きたい 外国人が 相談できるようにしました。そして、2021年度から 「外国人材活躍宣言事業所認定制度」を 始めました。外国人が 気持ちよく、長く 働いて、活躍できる 環境を つくってきました。

安心　計画の 3つ目：みんなが 気持ちよく生活できる まち

浜松市は、外国人が 安心して 生活できるように、2019年度に「多文化共生総合相談ワンストップセンター＜＝外国人が 1つの 場所で 何でも 相談できる 場所＞」を つくりました。いろいろな 国の 言葉で 相談できるようにしました。日本に 住む外国人のために、浜松市の ホームページは 7つの 言葉で 情報を 出しています。7つの 言葉は、英語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語、中国語、スペイン語と やさしい日本語※です。

日本語の 勉強をしやすくするために、いろいろな 方法を みんなで 話し合いました。日本語教室＜＝外国人が 日本語を 勉強するところ＞で 勉強している人の90%以上が 満足しています。

2018年度に 市役所の人たちは「やさしい日本語」の 使い方の 本を 作って、勉強しています。外国人に 分かりやすく 情報を 伝えるためです。2021年度からは、市役所の 受付で いろいろな 国の 言葉を 通訳する タブレットを 置いて、外国人と

会話が しやすいようにしています。

災害<＝大きい 地震や 台風などで 悪いことが 起きること>のときに、いろいろな 国の 言葉で 情報を 出す 練習をしています。災害のときに 外国人を 助けるためです。

2 外国人の 生活と 今の 問題

第2次ビジョンを つくったとき(2018年4月)からの 外国人の 生活と 今の 問題を整理します。

(1) 社会や 経済の 変化

人の 数が 減ったり、お年寄りが 増えたため、生産年齢人口<＝働くことが できる人の 数>が 減ったこと

日本の 少子高齢化<＝子供が 減って、お年寄りが 増えること>で、生産年齢人口が どんどん 減っています。それで、日本は 外国人に 働きに 来てもらいたいのですが、来てくれる 外国人が 足りません。他の 国で 働いてもらえる 給料が 日本と 同じぐらいに 高くなってきたので、他の 国へ 行ってしまう 外国人が 多くなりました。

いろいろな人が 一緒に 生活できる 社会を つくるために していること

2015年に 国連サミットで SDGs を 決めました。SDGs には 多文化共生に 関係するものが あります。また、最近は、Well-being※の 考え方が 広がっています。社会全体が 豊かになるためには、日本人だけではなく、外国人も 生活に 満足することが 大切です。

経済の 活動を 見てみると、ダイバーシティ経営の会社が増えています。ダイバーシティ経営とは、いろいろな人が 自分の 能力を うまく 使って 仕事が できるようにします。そうすると、新しい 技術が できて、たくさん 物を 作ることが できて、会社が 強くなります。

このような 考え方が 広がったため、日本の会社は 働く 外国人の 数を 増やしています。

新型コロナウイルスが 広がったこと

2019年12月から 新型コロナウイルスが 世界中に 広がって、経済の 活動が 止まりました。会社が 休みになったり、会社の 成績が 悪くなったりしました。みんな

仕事が なくなったり、給料が 減ったりして、生活が 苦しく なりました。
日本でも 新型コロナウイルスが 広がらないように、外国へ 行ったり、外国人が日本へ 来たりすることが 簡単に できなくなりました。それで、日本に 住む 外国人の 数が 減りました。でも、2022年から 少しずつ 外国人が 日本へ 来ることが できるようになって、日本に 住む 外国人は 増えています。

> 気象災害＜＝天気が 原因で 起きる 災害＞がひどくなっていることや、増えていること

大雨は 気象災害を よく 起こします。最近は、前より 大雨が 降る 日が 増えているし、短い時間に たくさん 雨が 降ることも 増えています。
気象災害に対しては、日本語が よく 分からない 外国人に 早く 情報を 伝えなければなりません。災害を防いだり、災害のための 準備を しっかり しなければなりません。

> デジタル化＜＝IT を 使って 仕事をすること＞と DX（デジタル・トランスフォーメーション）※を 進めること

ICT※技術が 高くなり、いろいろなことが できるようになりました。社会や 経済で問題が あったら、それが うまくいくようにするために ICT を 使っています。2021年、スマートフォンを 持っている人は 74.3%で、インターネットを 使う人は 82.9%です。インターネットを 使うとき、スマートフォンを 使う人のほうが パソコンを使う人より 多いです。
新型コロナウイルスが 広がって、イベントや 会議が なかなか できなくなりました。それで、人が 直接 会わなくても いいように、インターネットで イベントや会議を することが 多くなりました。

(2) 国の 動き

> 日本に 来たり、帰国したりする人を 管理するための ルールを まとめることと、在留資格を 増やすこと

2019年に 出入国在留管理庁が 新しく できました。日本から 出たり 入ったりすることや、日本に 住む 外国人を 正しく 管理するためです。出入国在留管理庁は、外国人を 日本に 迎えるための 準備も しています。外国人と 一緒に生活できる 社会を つくるためです。
日本は 新しい 在留資格「特定技能＜＝専門の 技術を 持っている 外国人が働くための 在留資格＞」を つくりました。日本は 働く人が 足りないので、日本

で 働く 外国人を 増やそうと しています。

- 2018年7月：日系四世＜＝外国へ 行って、その国の人に なった人たちの 子供の 孫＞を たくさん 日本に 迎えました。
- 2019年4月：「出入国在留管理庁」を 新しく つくって、出入国在留管理基本計画を つくりました。
- 2019年4月：在留資格「特定技能」を つくりました。

多文化共生に 関係がある 計画を 進めること・日本に 住む 外国人の 生活を 良くすること

日本は、外国人が 増えたので、外国人と 一緒に 生活するための 方法を 2018年にまとめました。2018年から 毎年 その方法を 新しくして、その年に しなければならないことを 発表しています。

2022年に 日本は いろいろな人と 一緒に 生活する 社会の ビジョンを つくりました。そのビジョンのために 大切なことと、これから 5年の 間に することを 決めました。

- 2018年12月：「外国人材の 受入れ・共生のための 総合的対応策」を まとめて、多文化共生総合相談ワンストップセンターを つくるための 準備を しました。
- 2020年9月：「地域における 多文化共生推進プラン」を 新しくしました。県や 市が 多文化共生を 進めるための 計画などを 決めるときに 役に立つからです。
- 2022年6月：「外国人との 共生社会の 実現に 向けた ロードマップ」を 発表しました。

日本語の 勉強をしやすくすること

日本に 住む 外国人が 多国籍化＜＝いろいろな 国の人が 増える＞しました。みんなが 分かる 言葉として 日本語を 教えることを 進めています。2019年に「日本語教育の 推進に 関する 法律」を つくりました。そして、日本語を 学ぶ・教える・どのぐらい できるようになったか 確認する 方法も 決めました。

- 2019年6月：「日本語教育の 推進に 関する 法律」を 発表しました。
- 2020年8月：「在留支援のための やさしい日本語ガイドライン」を つくりました。
- 2021年10月：「日本語教育の 参照枠」を まとめました。

(3) 浜松市の 今の 様子

外国人の 数の 変化と、将来 お年寄りが 急に増えるかもしれないこと

浜松市に 住む 外国人の 数は、世界中の 経済が 悪くなった 2008年に 減りました。それから また 増えていましたが、新型コロナウイルスが 広がって、少し 減りました（図1)。今は 増えています。

どの国から 来ているかを 見ると、浜松市に住む 外国人は 南アメリカから 来た人が 40%より 多いです。1990年に「出入国管理 及び 難民認定法」が 新しくなったとき、南アメリカから 来る人が 急に 増えたからです。そして、浜松市は ブラジルから 来た人が 日本で 一番 多い まち です。技能実習 の種類を 増やしたり、新しく 特定技能を つくったため、アジアの 国から 来る人が 増えて、多国籍化が 進みました（図2)。

在留資格を 見ると、永住者や 定住者という 長く 日本に 住むことができる在留資格の人が 73.1%です（図3)。

2018年から 2022年の 4年間を 年齢で 分けて 見ると、お年寄りが 急に 増えています（表1)。今から 10年間で、今いる 65歳以上の人の 2倍ぐらいの人が 新しく 65歳以上に なるかもしれません。

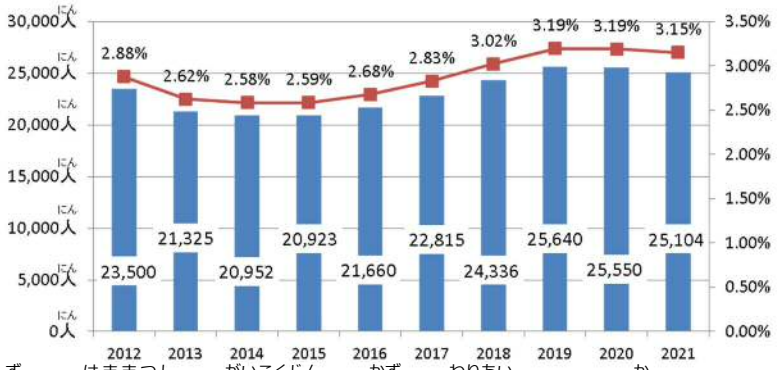
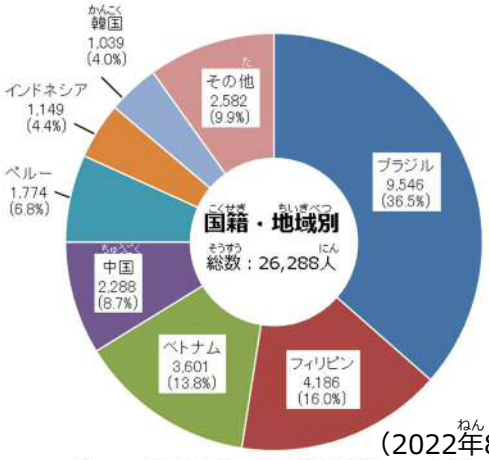
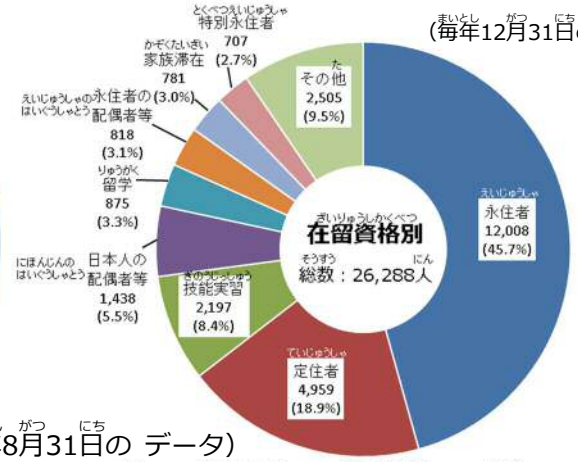


図1：浜松市の 外国人の 数や 割合が どう変わったか





（毎年12月31日のデータ）

（2022年8月31日の データ）

図2：浜松市の 外国人の 数
（国・地域で 分けたもの）

図3：浜松市の 外国人の 数
（在留資格で 分けたもの）

表１：浜松市の 外国人の 数（年齢で 分けたもの/2022年3月31日の データ）

	2018年	2022年	増減
全年齢	23,161人	24,897人	＋ 1,736人 (＋ 7.5%)
0-4歳	1,083人	1,091人	＋ 8人 (＋ 0.7%)
5-14歳	2,336人	2,378人	＋ 42人 (＋ 1.8%)
15-64歳	18,810人	20,223人	＋ 1,413人 (＋ 7.5%)
65歳以上	932人	1,205人	＋ 273人 (+29.3%)

浜松市の 外国人の 今の 暮らしについて

統計データ＜＝数を 調べて 計算した データ＞（◎が ついているもの）、「第49回＜＝49回目＞市民アンケート（2022年度）」（●が ついているもの）、「2021年度浜松市における 日本人市民 及び 外国人市民の 意識実態調査＜＝浜松市の 日本人と外国人の 考えを 調べたもの＞」（○が ついているもの）を 分けて 整理します。

【生活】

○ 日本に 長く いたいと 思っている 外国人は 74.8%です。

○ 家を 買った人が 増えました。（2018年：29.8%から 34.4%になりました）

○ 健康保険＜＝病気や けがのときに 払う お金を みんなで 助ける 保険＞に 入っている人は 93.0%です。（会社の 健康保険に 入る人が 増えました）

○ 年金＜＝年を 取って 働くことが できなくなったとき、生活に 困らないように お金を もらうことが できる保険＞に 入っている人は 74.6%です。（会社の 年金に 入る人が 増えました）

○ 貯金をしている人は 36.3%です。（この中で、貯金が 100万円より 少ない人は 51.8%です）

○ 介護保険制度＜＝年を 取ったり、病気や けがをしたりして、生活が苦しく なった人を 助けるための 保険＞を 使ったことがない人の 中で、この制度のことを よく知らない人は 39.2%です。

問題	生活が 苦しく なったときや、赤ちゃんを 産んだり、子供を 育てたり、お年寄りになったときも 手伝わなければなりません。外国人が 日本に 長く 住むようになったからです。
	➢ 外国人は 貯金する 習慣が ないため、将来の 計画を 立てるのが 難しいです。社会や 経済が 悪くなったとき、生活が 苦しく なりやすいです。 ➢ 外国人が 安心して 赤ちゃんを 産んだり、子供を 育てたり することが できるように 助けなければなりません。日本に 長く 住むようになって、日本で 家族を つくる 外国人が 増えたからです。 ➢ 外国人に 介護保険制度のことを 知らせなければなりません。年を取るまで 日本に 長く いる 外国人が 増えているからです。

【地域・交流】

● 浜松市は、外国人と 日本人が お互いに 理解したり、交流したりすることが できる まちを つくろうとしています。そのことに 満足している人は 13.2%です。

○ 自治会に 入っている 外国人は 35.6%です。

○ 「多文化共生」について 知っている人や 理解している 日本人が 増えました。(2018年：54.7%から 66.8%になりました)

○ 外国人と 会う 機会が ない人は 27.9%です。

○ 近所以外で、外国人と 交流が ない人は 68.1%です。

○ 外国人に 生活の ルールを 守ってほしいと 思っている人は 63.8%です。

○ 外国人が 増えると、まちが 元気になると思っている人は 21.0%です。

問題	地域で 外国人と 日本人が うまく やっていくこと
	➢ 浜松市に 住む 外国人と 日本人の 交流の機会が 減っています。[1] ➢ 日本人が 外国人のことを、一緒に 地域を助ける人だと 思っていません。

[1] 「2021年度 浜松市における 日本人市民 及び 外国人市民の 意識実態調査」は、新型コロナウイルスの 影響で 交流が 少なくなった ときに 調べたものなので、注意しなければなりません。

【日本語の勉強】

○ 日本語を 話したり 聞いたりすることが 上手な 外国人が 多いです。

○ 漢字を 読んだり、日本語で 書いたりすることが 難しい 外国人が 多いです。(日本に 長く 住んでいる 外国人も 同じです)

○ 日本語を 勉強する 理由は、「生活のため」が 70.7%で、「仕事のため」が 56.2%です。

○ 日本語を 勉強したことがない 外国人は 20.9%です。

○ 日本語を 勉強したいと 思っている 外国人は 73.0%です。(場所について、中区が いい人は 24.9%で、オンラインが いい人は 16.1%です)

問題	いろいろな 所や いろいろな レベルの 日本語の 教育
	➢ 日本語の 中で 特に 漢字を 読んだり 書いたりすることが 苦手です。 ➢ 外国人が どんな 所で、どんなときに 日本語を 使うかを 考えて、日本語を 教えなければなりません。 ➢ 日本語を 勉強したいと 思っている人が 多いです。日本語を 勉強したことがない人も います。

【子供の教育】

◎ 公立小中学校＜＝国や まちが 管理している 小学校や 中学校＞に 通う 外国人が 増えました。(2022年度：1,846人)

◎ 公立小中学校に 通う 外国人の 中で、日本で 生まれて 成長した 生徒は 68.0%です。

◎ 中学校を 卒業して、高校に 行く人は 80%以上です。(定時制高校＜＝昼に 学校へ 行くことが できない人が、夜 勉強することが できる 高校＞に 行く人が 30%ぐらい います)

◎ 外国人の 子供の 8.1%が 外国人学校＜＝外国人の 子供のための 学校。自分の 国の 言葉で 勉強することが できます＞に 通っています。(2022年度)

○ 外国人の 親の 65.9%は、中学校を 卒業したら 日本の 高校に 行ってほしいと 思っています。

問題	日本に 長く 住んでいる 外国に ルーツを 持つ 子供＜＝日本の国籍を 持っていても、父か 母が 外国人の 子供など＞を 手伝うこと
	➢ いろいろな 国から 来る 子供が 増えたので、その子供たちに 合わせた 方法で 勉強を 手伝わなければなりません。 ➢ 外国に ルーツを 持つ 子供が 日本に 長く 住むようになったので、学校や 仕事などの 将来について 一緒に 考えて、手伝わなければなりません。 ➢ 中学校を 卒業してから 定時制高校に 行く 子供が 多いです。日本語が あまり 上手でないことが 原因の一つです。 ➢ 生活が 苦しくて、学校に 行くことが できなかったり、行きたい 学校に 行くことが できなかったり します。

【仕事】

○ 物を 作る 仕事をしている人は 61.2%です。

○ 派遣会社＜＝働く人を 他の 会社に 貸す会社＞を通して 働く 人などが 増えました。(2018年：28.3%から 39.2%になりました)

○ 新型コロナウイルスの 影響で 仕事が なくなった人や 休まなければならない人が いました。

問題	派遣会社などで 働く人が 多いこと
	➢ 将来の 生活や 計画に 心配なことが 多いです。将来 お金を どのくらい もらうことが できるか 分からない 仕事をしている人が 多いからです。 ➢ 会社は、仕事が 多いときは 働く 人を 増やしたいし、仕事が 少ないときは 人を 減らしたいです。そのとき、会社は外国人を 増やしたり 減らしたりすることが 多いです。

【大変なことが 起きたときの ための 準備】

○ 避難所＜＝みんなが 逃げる 所＞を 知っている人は 68.0%です。

○ 災害が 起きる 前に 準備してほしいもの

…避難所などを わかりやすく 書いておくことは 62.2%です。早く 情報を 伝えることは 44.3%です。

○ 災害や 新型コロナウイルスについての 情報を 何を 使って 集めるか

…インターネットは 74.1%です。テレビや ラジオは 57.9%です。

問題	何も ないときに 災害のための 準備をすることや 大変なことがあったとき すぐに 情報を 知らせること
	➢ 災害が 起きたときの 避難所を 知っている人は 増えましたが、逃げるために 必要な 情報が もっと しっかり していなければなりません。 ➢ 外国人が 情報を 集めるときに 使うものに 合わせて 緊急情報＜＝急いで 伝えなければならない 大切な 情報＞を知らさなければなりません。

外国人市民共生審議会からの 意見

浜松市には、「浜松市 外国人市民共生審議会」が あります。外国人と 日本人が一緒に 生活するために 必要なことを 調べたり、話し合ったりするためです。

第2次ビジョンの 間に 2回（第5期と 第6期）意見を 出しました。

【第5期の 外国人市民共生審議会の 意見】

テーマ１：スポーツなどで 交流を 増やすこと

➢ 意見1:スポーツや イベントなどで 地域の人が 交流する 機会をつくります。

テーマ２：安心して 生活できるように 手伝うこと

➢ 意見2：外国人が ほしい 情報を しっかりと 伝えることが できるように します。

テーマ３：子供たちを 助けます

➢ 意見3:子供たちが 自分の 将来のことを 考える 機会を つくります。

【第6期の 外国人市民共生審議会の 意見】

テーマ１：外国人が 年を 取ったときのこと

➢ 意見1：外国人が 安心して 年を取ることが できるようにします。

テーマ２：子供たちの 学校や 仕事などの 将来について 手伝うこと

➢ 意見2:外国人の 子供たちの 将来について 一緒に 考えて、手伝うように します。

(4) 国内の 他の まちの 動き

外国人が 増えて、国内の いろいろな まちが多文化共生について 考えています。多文化共生の まちを つくるために、外国人にも 手伝ってもらうという 考え方が広がっています。

浜松市は「外国人集住都市＜＝外国人が 多く 住む まち＞会議」や「多文化共生推進＜＝多文化共生を 進める＞協議会」に 参加して、他の まちと 協力しています。お互いに 情報を 教えたり、国へ 意見を 出したりしています。

(5) 他の 国の 動き

先進国＜＝経済が 大きく 進んでいる 国＞では、移民＜＝他の 国から 来て 住む人＞が 増えています。その国の 言葉を 必ず 移民に 覚えてもらう 国も あります。

多文化共生のために 国も まちも いろいろなことをしています。例えば、オスロ市（ノルウェー）では、住んでいる人の 33.8%が 移民です。ノルウェーに 3ヶ月以上住む 予定の 子供は、学校に 行って ノルウェー語と 自分の 国の 言葉を 勉強しなければなりません。大人は ノルウェー語の 勉強や ノルウェーの 社会について勉強します。移民が 会社で 働いたり、自分で 会社を つくったりするときは、いろいろな 国の 言葉で 必要な 手伝いをします。オスロ市では、社会 全体で 多文化共生は 普通のことだと 考えられています。

それから、多文化共生を 進める 世界の ネットワーク＜＝つながること。つながり＞が 広がっています。ヨーロッパでは、いろいろな 文化が あることを 良いことだと 考えています。いろいろな人が 一緒に 生活すると、まちが 元気になったり、新しいものが 生まれたり、成長したりします。それで、欧州評議会※が 多文化共生の まちを つくることを 進めています。2008年から「インターカルチュラル・シティ※・プログラム（ICC）」が 始まりました。このプログラムには 世界で 150以上の まちが 参加しています。浜松市も 2017年に 参加しました。アジアの まちの 中で 最初でした。

3 これから どうなっていくか

これまで 整理した 今の 様子や 問題から、これからの 大切な 計画の 進め方を 考えます。

外国人の 活躍

◆ 浜松市に 住む 外国人と 日本人が 交流する機会を 増やします。また、外国人が 地域に 参加できるように 手伝います。

◆ 外国人が 会社で 働いたり、自分で 会社を つくったりすることを 手伝います。

- ICCの 考えを 大切にして、外国人の 力で 地域を 元気にしたり、経済を もっと 良くしたり します。みんなが 協力して まちを 良くしなければなりません。
- 安心な 生活をしたり、子供が しっかりと教育を 受けたりするために、毎月 ちゃんと 給料を もらうことが できなければなりません。

日本語の 教育

◆ 浜松市に 住む 外国人に 合った 日本語の 勉強を しっかり 手伝います

- これから もっと いろいろな 国から 外国人が 浜松市に 来ます。ですから、日本語を みんなが 分かる 言葉として、外国人に 日本語を 教えなければなりません。

毎日の 生活・ライフステージ＜＝人が 生きている 間に 起きる いろいろなこと。入学、卒業、就職、結婚など＞

◆ 外国人が いろいろな ライフステージで 必要な 情報を 簡単に 知ることが できるようにします。そのために 浜松市は 外国人を 手伝う 地域の 人たちと 協力します。

- 浜松市には 長く 住む 外国人が 多いので、きっと 将来 外国人の お年寄りが 増えます。生まれてから 年を取るまで ずっと 必要なときに 手伝わなければなりません。

大変なことが 起きたときのための 準備

◆ 大変なことが 起きたときのために しっかり準備すること(災害のときの 準備や 外国人に 分かりやすい 方法で 早く 情報を 伝えること)

- 気象災害や 地震が 起きたり、病気になる人が 増えたりしたとき、早く 情報を 伝えなければなりません。
- 何も ないときに 災害のための 準備をすることが 大切だと 教えなければなりません。

デジタル化と DX を 進めること

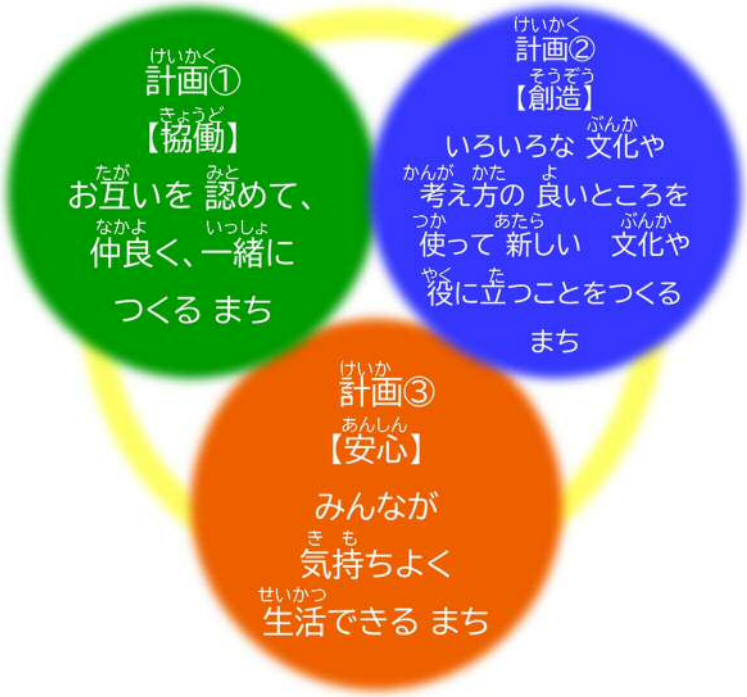
◆ スマートフォンや インターネットなどを 使った技術で 多文化共生を 進めること

- 多文化共生に する サービスを 受けることが できるように しなければなりません。

第3章　第3次ビジョンの 内容

1 将来 なりたい 姿

相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市
（お互いを よく 知って 大切に しながら、新しい ものを つくって
成長を 続けます。みんなで 多文化共生の まちを つくります）



浜松市 総合計画には、「市民協働で 輝く『未来へ かがやく 創造都市・浜松』」が 将来 なりたい まちの 姿だと 書いてあります。また、浜松市は 2018年度から「浜松市 SDGs 未来都市 計画」を 進めて います。「いろいろな人たちが お互いに助けようとする 社会」というのが 浜松市の 特に 良いところだと 考えています。

第3次ビジョンは、浜松市 総合計画の中の 一つです。いろいろな人が 一緒に 生活する まちを つくるためには、外国人も 活躍してほしいと 浜松市は 考えています。

このために、第3次ビジョンでも 第1次・第2次ビジョンで 決めた 考え方で 続けます。社会の 経済の 変化に 合わせて、いろいろな ライフステージで みんなが安心して 生活できるようにします。それから、外国人が もっと 活躍できるようにします。そして、いろいろな人と まちを 良くするために 多文化共生の 社会を つくります。

2 進め方・やり方

(1) 進め方

これからも いろいろな人や グループなどと 一緒に やっていきます。第3次ビジョンの 計画を もっと 進めるためです。

浜松市 全体で 行うこと

国、県、市民、外国人が 働いている 会社、多文化共生のために 活動している グループ、浜松市にある ブラジル総領事館などが やっていることを 手伝います。、また、いろいろな 人たちや グループと 協力して、浜松市 全体で 多文化共生を 進めます。

まちの みんなが 協力すること

浜松市では、たくさんの人や グループが多文化共生のために 活動しています。市民、市民の グループ、自治会、外国人の グループなどです。それぞれの 良いところを うまく 使って、いろいろな やり方で 活動を 進めます。

国内や 外国の 多文化共生の まちと 協力すること

国内の いろいろな まちと 協力して、多文化共生のための 計画や 問題について 調べたり 研究したりします。また、世界の 多文化共生の まちとも 協力します。

(2) 進め方・どのくらい 進んでいるか 管理すること

第3次ビジョンが どのくらい 進んでいるかは、浜松市 戦略計画の「政策・事業シート」で 確認します。そして、「浜松市多文化共生推進協議会」「浜松市外国人市民共生審議会」や 市役所の 中の 多文化共生を 進める 会議で 報告します。

3 計画を まとめたもの

まちが 将来 なりたい 姿 になるために、3 つの計画を まとめます。

将来なりたい姿

相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市

(お互いを よく 知って 大切に しながら、新しい ものを つくって 成長を 続けます。みんなで 多文化共生の まちを つくります)

1．お互いを 認めて、仲良く、一緒に つくる まち（協働）

(1) 浜松市 全体で 計画を 進めます

- ◆ 多文化共生に 関係がある いろいろな グループとの 協力を 進めること
- ◆ 浜松国際交流協会の ネットワーク機能を 強くすること
- ◆ 多文化共生の 良い 例を みんなに 知らせること

(2) 多文化共生のための 教育を します

- ◆ 国際理解教育を 進めること
- ◆ 多文化共生についての 理解を 進めること

(3) 交流する 機会を 増やして お互いに 理解できるようにします

- ◆ 交流イベントを 行うこと
- ◆ 地域での 交流を 増やすための 手伝い

(4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の 活動を 手伝います

- ◆ 地域の グループへの 外国人の 参加を 増やすこと
- ◆ 外国人の グループや 外国人を 手伝っているグループとの 協力の 関係を 強くすること

2．いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 新しい 文化や 役に立つことを つくる まち（創造）

(1) これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったり します

- ◆ 子供たちが 自然に 多文化共生の 考え方を 持つようにすること
- ◆ 外国に ルーツを 持つ 子供たちへの 教育を 手伝うこと
- ◆ 外国に ルーツを 持つ 人たちの 青少年期の 仕事などについて 手伝うこと

(2) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います

- ◆ 文化や 芸術の 活動に 外国人が 参加しやすく すること
- ◆ いろいろな 文化や 考え方を 理解して、大切にすることから、新しい 文化をつくること
- ◆ 外国人が 自分たちの 文化を みんなに 知らせること

(3) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 地域を 元気にします

- ◆ 外国人が 会社で 働くのを 手伝うこと
- ◆ いろいろな 外国人が 働きやすくすること
- ◆ 地域で 外国人が 自分で 会社を つくるのを 手伝うこと

(4) 他の まちや グループなどとの 協力を 進めます

- ◆ 国内の 他の まちや グループとの 協力を 進めること
- ◆ インターカルチュラル・シティと 協力して、分かったことや 学んだことを お互いに 教えること

3．みんなが 気持ちよく 生活できる まち（安心）

(1) 大変なことが 起きたときのために 準備します（災害や 病気など）

- ◆ 災害時外国人支援情報コーディネーター※が リーダーになって、災害を 防いだり、災害のための 準備をすること
- ◆ 外国人と 一緒に 生活する 社会で、 災害を 防ぐ 力を 強くしたり、今より しっかり 災害のための 準備をしたり すること
- ◆ いろいろな 方法を 使って 情報を 伝えること

(2) お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるように します

- ◆ 日本語の 勉強を しっかり 手伝うこと
- ◆ 通訳をする人や 相談を 受ける人を 増やしたり 育てたりして、その人たちに よく 働いてもらうこと
- ◆ ICTなどを 使って、いろいろな 国の 言葉や「やさしい日本語」で 情報を 伝えること

(3) 地域で みんなが 一緒に 生活するのを 手伝います

- ◆ 地域の 問題が うまくいくように 手伝ったり、情報を 教えたりすること
- ◆ 地域の ルールや 地域で 必ず しなければならないことを 教えること
- ◆ 地域で お互いの 理解を 進める 仕事をする人を 育てて、その人たちに よく 働いてもらうこと

(4) 安心な 生活を 続けることが できるように します

- ◆ いろいろな 情報や 相談できるところを 増やすこと
  (ライフステージで 必要なこと・住むところ・病気や 病院のこと・子供を 育てることや 年を取ったときのこと・在留資格など)
- ◆ 地域で 生活を 手伝ったりするところとの 協力
- ◆ 安心な 生活のために いろいろな 情報を 教えること（事件や 事故を 防ぐことや、安全な 交通のことなど）

4 とても大切な 計画

(1) 外国人が 活躍できるようにすること

浜松市にある いろいろなものを うまく 使って、地域で 活躍する 外国人を浜松市に 迎えたり、育てたり、協 力 したりします。地域を 元気にしたり、経済をもっと 良くしたりするためです。

【一番 関係がある 計画】

- 計画1：協 働(4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の 活動を 手伝います
- 計画2：創造(2) いろいろな 文化や 考え考の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います
- 計画2：創造(3) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 地域を 元気に します

(2) いろいろな 日本語の 教育を 進めること

いろいろな 文化を 持つ人たちが 地域で 一緒に 生活するとき、みんなが わかる言葉として 日本語を 教えます。自立した 言語使用者※ になれるように 日本語を話すことが できるようにします。

そのために、地域・学校・会社など いろいろなところで、いろいろな レベルの日本語を 教えることが できるように します。オンラインも 使います。日本語を 教える人も 育てて、活躍できる 機会を 増やします。

【一番 関係がある 計画】

- 計画3：安心(2) お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝える ことが できるように します

(3) いつもの 生活や いろいろな ライフステージで 必要な 手伝い

今まで してきた 生活や 教育の 手伝いを もっと しっかりします。スマートフォンや インターネットなどの 情報の 技術を 使ったり、外国人を 手伝う 地域の人たちと 協 力 したりします。外国人が いろいろな ライフステージで ほしい情報や サービスを 簡単に 知ることが できるようにします。

【一番 関係がある 計画】

- 計画1：協 働(4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の 活動を 手伝います

- 計画2：創造(1) これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったり します
- 計画3：安心(2) お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるように します
- 計画3：安心(3) 地域で みんなが 一緒に 生活するのを 手伝います
- 計画3：安心(4) 安心な 生活を 続けることが できるように します

(4) 大変なことが 起きたときのために しっかり 準備すること

気象災害や 地震が 起きたり、病気になる人が 増えたりしたとき、スマートフォンや インターネットを 使った 情報の 技術で 情報を 早く 伝えます。災害を 防いだり、災害のための 準備をしたりするように 外国人に 教えます。災害のときに みんなを 助ける人を 育てます。

【一番 関係がある 計画】

- 計画3：安心(1) 大変なことが 起きたときのために 準備します (災害や 病気など)

(5) スマートフォンや インターネットを 使った 情報の 技術や、DX を 進めること

スマートフォンや インターネットなどの 情報の 技術を 使うことを 増やしたり、DX を 進めたりします。上に 書いた 4 つの とても 大切な 計画を うまく 進めるためです。

5 進めるための 計画

協働 計画１：お互いを 認めて、仲良く、一緒に つくる まち

- (1) 浜松市 全体で 計画を 進めます
- (2) 多文化共生のため 教育をします
- (3) 交流する 機会を 増やして お互いに 理解できるようにします
- (4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の 活動を 手伝います

多文化共生の まちを つくるために、多文化共生のことを よく理解します。違う文化を 持つ人たちが 交流して お互いに 理解できるようにします。いろいろな人や グループが 協力して 多文化共生の まちを つくります。

関係がある 計画など

- 浜松市 生涯学習推進大綱
- 第3次 浜松市 ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅢ）
- 第2次 浜松市 人権施策推進計画
- 浜松市 図書館ビジョン
- 第3次 浜松市 子供読書活動推進計画

(1) 浜松市 全体で 計画を 進めます

多文化共生の 社会を つくるために、浜松市 全体で 計画を 進めます。浜松市は、多文化共生に 関係がある グループや 市民に 協力してもらいます。

多文化共生に 関係がある いろいろな グループとの 協力を 進めること

国、県、市内の グループが 協力して 多文化共生を 進めるために、浜松市多文化共生推進協議会を 行います。浜松市 外国人市民共生審議会も 行います。浜松市 外国人市民共生審議会では、外国人と 日本人が 一緒に 生活するために必要なことを 調べたり、話し合ったりします。

浜松国際交流協会の ネットワーク機能を 強くすること

(公財)浜松国際交流協会の ネットワーク機能を 強くします。NPO など 外国人を 手伝う グループや ボランティアで 活動をしている人たちや 産官学＜＝会社、市、学校など＞が 協力しやすくするためです。

多文化共生の 良い 例を みんなに 知らせること

多文化共生の 社会を つくるために 頑張っている人や グループを みんなに 発表して 褒めます。そして、多文化共生に 関係があることで 成功した 例を みんなに 知らせます。浜松市で 活躍する 外国人を 市の ホームページなどで 紹介します。多文化共生の 計画を 進めたり、たくさんの 人に 知ってもらったりするためです。

(2) 多文化共生のための 教育をします

お互いに よく 理解するための 教育をします。お互いに 理解することは 多文化共生の 社会で 一番 大切なことです。

国際理解教育を 進めること

多文化共生センターや 協働センターなどで 国際理解教育や 言葉の 教育などを 行います。浜松市に いる 外国人や 海外での 経験が 多い 日本人などが 先生に なります。

多文化共生についての 理解を 進めること

「はままつ 多文化共生 MONTH」などを 使って 多文化共生に 関係がある テーマについて 教えます。多文化共生についての 理解を 進めるためです。そして、いろいろな 文化を 理解するために、ユニバーサル デザインについて 教育をしたり、研修をしたりします。また、人権について 教育したり、研修をしたりします。国や 文化が 違う人を 仲間に 入れないという 考えを 持たないようにするためです。

(3) 交流する 機会を 増やして お互いに 理解できるように します

違う 文化を 持つ人たちが お互いに 理解できるように、イベントや 交流の 機会を 増やします。

交流イベントを 行うこと

多文化共生センターや 外国人 学習支援センターなどで 多文化共生に 関係がある 交流イベントを 行います。（公財）浜松国際交流協会や 地域に 住む外国人の グループなどと 協力して 交流を 増やします。

地域での 交流を 増やすための 手伝い

地域に 住む人たちの 交流会などを 増やすために 手伝います。（公財）浜松国際交流協会などと 協力して、違う 文化を 持つ人たちの 交流を 増やします。

地域の 交流の 役に立つように、図書館や「はままつ 電子図書」に 外国語の 本を 増やしたりして、外国人が 使いやすくします。「はままつ 電子図書」では、インターネットで 資料や 本を 探したり、見たりすることが できます。

(4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の活動を 手伝います

地域の 外国人は 一緒に まちを つくる 仲間です。外国人が まちを つくるための いろいろな 計画に 参加できるようにします。

地域の グループへの 外国人の 参加を 増やすこと

自治会についての 資料の 翻訳を 手伝います。外国人が 自治会に 入って、活動しやすくするためです。また、必要なときは、多文化共生センターから その地域に コーディネーター＜＝いろいろなことを 調整して まとめる 仕事をする人＞が 行きます。コーディネーターは、相談を 受けたり、問題が うまく いくように 手伝ったりします。地域共生モデル事業＜＝地域で 外国人と 日本人が 一緒に 生活するのを 試す 仕事＞を 行います。

外国人の グループや 外国人を 手伝っているグループとの 協力の 関係を 強くすること

浜松市は 多文化共生センターや 外国人 学習支援センターなどとの ネットワークを 広げています。そして、外国人の グループや NPO など 外国人を 手伝う グループとの 協力の 関係を 強くします。多文化共生センターや 外国人 学習支援センターでは、新しい グループを つくることや 活動の 手伝いも します。

創造 計画２：いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 新しい 文化や 役に立つことを つくる まち

(1) これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったり します

(2) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います

(3) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って地域を 元気に します

(4) 他の まちや グループなどとの 協力を 進めます

いろいろな 文化から 新しいことを つくる活動を 手伝います。まちの いいところを 増やして、地域を 元気にするためです。そして、浜松市の 将来のために、これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったりします。また、国内や 外国の多文化共生の まちや グループと、分かったことや 学んだことを お互いに 教えます。みんなが 自分の 持っている 力や、いろいろな 文化の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる まちにします。

関係がある 計画など

- 第3次 浜松市 教育総合計画
- 第2期 浜松市 子ども・若者支援プラン
- 浜松市 文化振興ビジョン
- 「創造都市・浜松」推進のための 基本方針

(1) これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったり します

グローバル化＜＝世界中の 国や 地域が、政治や 文化や 経済で つながること＞が 広がっています。浜松市の 将来のために、これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったりします。

子供たちが 自然に 多文化共生の 考え方を 持つようにすること

子供たちが 違う 国の 文化を 学んだり、体験したりして、自然に 多文化共生の 考え方を 持てるように します。そのために、浜松市に いる 外国人や 海外での経験が 多い 日本人などが 先生に なります。そして、生きた 英語力 育成事業＜＝

英語で 言いたいことを 伝える 力を 育てる 仕事＞をして、子供たちが 他の 国の文化を 理解しやすくします。子供たちが お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝える 能力を 伸ばします。

外国に ルーツを 持つ 子供たちへの 教育を 手伝うこと

外国人 子供教育支援推進事業＜＝外国人の子供の 教育を 手伝う 仕事＞をします。バイリンガル支援者※や 日本語の 勉強を 手伝う人が 公立小中学校に 行って、外国に ルーツを 持つ 子供たちを 手伝います。そして、外国人の 子どもの不就学ゼロ作戦事業＜＝学校に 行っていない 外国人の 子供を なくす 仕事＞や外国人学校 支援事業＜＝外国人学校を 手伝う 仕事＞をします。外国に ルーツを持つ 子供の 教育に 関係がある いろいろな 問題を 手伝うためです。

外国に ルーツを 持つ人たちの 青少年期の 仕事などについて 手伝うこと

進路や 仕事についての 考え方を 育てたり、仕事に関係がある 情報を 伝えたり、近くにいる 外国に ルーツを 持つ人で 成功している人を 紹介したりします。外国に ルーツを 持つ 若い人たちが 将来の 学校や 仕事などについて 考える機会を つくるためです。外国に ルーツを 持つ 若い人たちの 親にも 日本での仕事について 教えます。

(2) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います

違う 国の 文化や 芸術を 経験する 機会を 増やしたり、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います。いろいろな人が 一緒に 生活することを 理解したり、大切にしたり するためです。

文化や 芸術の 活動に 外国人が 参加しやすく すること

文化や 芸術の 活動に 外国人が 参加しやすく します。そのために、ソーシャルネットワーキングサービス※などの いろいろな 方法で 使います。いろいろな 国の言葉で 文化や 芸術の 仕事に 関係がある 情報を たくさん 伝えます。また、お互い 関係がある グループが もっと 協力して、文化の イベントなどに 外国人が参加しやすくします。

いろいろな 文化や 考え方を 理解して、大切にすることから、新しい 文化を つくること

違う 国の 文化を 経験して、お互いに よく 理解するために、いろいろな人が お互いの 文化を よく 知ることが できる イベントを 行います。浜松市は 音楽の 創造都市[2]という 特徴が あるので、音楽に 関係がある 創造都市事業＜＝文化や 芸術の 良いところを 使って、暮らしを 良くする 計画＞を 行います。そして、もう一つ、インターカルチュラル・シティプログラムも 一緒に 行って、いろいろな 文化の 交流を もっと 増やします。

外国人が 自分たちの 文化を みんなに 知らせること

浜松市は、文化の イベントなどへ 外国人が 参加して、自分たちの 文化を みんなに 知らせる 機会を つくります。そして、外国人が 計画したり、行ったりする 活動も 手伝います。

(3) いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 地域を 元気にします

浜松市は いろいろな 文化が あることを 良いことだと 思っています。いろいろな 外国人を 仲間に 入れたり、外国人が 活躍できるようにして、地域を 元気にします。

外国人が 会社で 働くのを 手伝うこと

外国人を 浜松市に 迎えたり、外国人が 会社で 働くことを 手伝うために、「外国人 雇用サポートデスク」を やります。「外国人 雇用サポートデスク」は、浜松市の 会社と 外国人が 相談できるところです。外国人材活躍宣言事業所認定事業を 行って、外国人が 働きやすい 会社を 認めていきます。

いろいろな 外国人が 働きやすくすること

留学生が 浜松市の 会社で 働いたり、自分で会社を つくったりするのを 手伝います。そして、留学生と 浜松市の 会社が 働くために 話す 機会を つくります。働いている 外国人の 日本語の 勉強に かかる お金を 会社が 払っている 場合は、その会社に お金を あげたりします。専門的な 技術や 知識を 持っている 外国人が 地域に いてもらえるように するためです。

---

[2] 浜松市は、2014年に ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の 創造都市ネットワークの 音楽の グループに 参加しました。

地域で 外国人が 自分で 会社を つくるのを 手伝うこと

外国人 起業活動促進事業（スタートアップ ビザ）＜＝外国人が 自分で 会社を つくるための 準備を 手伝う 仕事＞を 行います。自分で 会社を つくる 外国人を 育てたり、外国人が 活動しやすい 場所を つくるためです。「はままつ 起業家 カフェ」や （公財）浜松国際交流協会と 協力して、浜松市で 会社を つくろうとする 外国人を 手伝います。外国人が 会社を つくるときに 必要な ルールも 教えます。

(4) 他の まちや グループとの 協力を 進めます

多文化共生の 社会を つくるために、国内や海外の まちや グループと 情報を 教えたり、協力を 進めたりします。

国内の 他の まちや グループとの 協力を 進めること

これからも 外国人 集住都市 会議に 参加して、国や 県などへ 意見を 出したり、参加している 他の まちと 協力していきます。（一財）自治体 国際化 協会、（独）国際交流基金、（独）国際協力機構などの グループと もっと 協力して、国内の まちとの 協力を 進めます。

インターカルチュラル・シティと 協力して、分かったことや 学んだことを お互いに 教えること

ヨーロッパなど、世界の たくさんの まちが「インターカルチュラル・シティ・ネットワーク」に 参加しています。浜松市も 参加しています。多文化共生に 関係がある 新しい 変化に 注意しながら、世界の インターカルチュラル・シティとの 協力を 進めます。協力して 分かったことや 学んだことなどの 情報を 国内や 海外に 伝えます。

安心 計画３：みんなが 気持ちよく 生活できる まち

(1) 大変なことが 起きたときのために 準備します
(災害や 病気など)

(2) お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが
できるように します

(3) 地域で みんなが 一緒に 生活するのを 手伝います

(4) 安心な 生活を 続けることが できるように します

外国人が 地域で みんなと 一緒に 安心して 生活できる ように、言葉や 文化の違いで 起きる 問題を 少なくします。外国人が 生活の ルールを 守ったり、その地域で しなければならないことが できるように、国手伝います。災害のときや 病気になる人が 増えたときなどに、外国人が 心配しないで 落ち着いて 生活できるようにします。普通の 生活のときも、大変なことが 起きたときも、いろいろなことで外国人を 手伝って、みんなが 安全に、安心して、気持ちよく 生活できる まちにします。

関係がある 計画など

- 浜松市 地域防災計画
- 浜松市 新型インフルエンザ等対策行動計画
- 浜松市 一般廃棄物処理 基本計画『ごみ処理 基本計画編（改定版)』
- 浜松市 住 生活基本計画
- 第2期 浜松市 子ども・若者支援プラン
- 第3次 浜松市 自殺対策推進計画
- 第4次 浜松市 地域福祉計画
- 第2次 浜松市 消費者教育推進計画

(1) 大変なことが 起きたときのために 準備します（災害や 病気など）

気象災害や 地震が 起きたとき、病気になる人が 増えたときのために、情報の 伝え方を よく 考えます。大変なことが 起きる前に みんなに 教えて 準備します。

災害時外国人支援情報コーディネーターが リーダーになって、災害を 防いだり、災害のための 準備をすること

大きい 災害のときは、災害時 外国人 支援情報 コーディネーターが リーダーになります。そして、(公財) 浜松国際交流協会や 他の グループと 協力して、災害のときに いろいろな 国の 言葉で 外国人を 手伝う 場所を つくって、管理します。また、災害のときに 必要な 知識や 技術を 教える 研修を 行って、いろいろな 国の 言葉で 外国人を 手伝う人を 育てたり、見つけたりします。

外国人と 一緒に 生活する 社会で、災害を 防ぐ 力を 強くしたり、今より しっかり 災害のための 準備をしたり すること

いろいろな 文化や 考え方を 持つ人たちのための 防災訓練＜＝災害を 防いだり、災害のための 準備をする 練習＞を 手伝います。いろいろな 場所に行って 災害を 防ぐ 勉強会を するのを 手伝います。また、エスニック・メディア※や 外国人の グループと 協力して 災害を 防ぐ 勉強会を 行ったり、外国人が 地域の 災害を 防ぐ 計画に 参加しやすくします。

いろいろな 方法を 使って 情報を 伝えること

災害のときや 大変なことが あったとき、(公財) 浜松国際交流協会の フェイスブックなどの いろいろな 方法を 使って いろいろな 国の 言葉で 外国人に 情報を 伝えます。緊急情報を 早く 正確に 伝えるために、スマートフォンや インターネットを 使って いろいろな 国の 言葉で 伝える 方法を しっかり 考えます。

(2) お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるように します

いろいろな 文化を 持つ人たちが 地域で 一緒に 生活するとき、みんなが わかる言葉として 日本語を 教えます。日本語の 教育を 今より もっと 良くしながら、いろいろな 国の 言葉や「やさしい日本語」でも 情報を 伝えます。

日本語の 勉強を しっかり 手伝うこと

外国人学習支援センターで、外国人に 生活のための 日本語や 日本の 文化を 教える 勉強会や、ボランティアを 育てる 勉強会を 行います。浜松市で 活動している NPO など 外国人を 手伝う グループとの ネットワークを 強くします。地域・学校・会社など いろいろなところで、いろいろな レベルの 日本語を 教えることができるようにします。教えるときに オンラインも 使います。

通訳をする人や 相談を 受ける人を 増やしたり 育てたりして、その人たちに よく働いてもらうこと

市役所の 受付に 通訳をする人を 置いたり、多文化共生センターに いろいろな国の 言葉で 相談を 受ける人を 置いたりします。外国人が 市役所で 手続きをしたり、生活の 相談をしたり、情報を もらったりするのを 手伝うためです。外国人の困っていることを 手伝うために、ソーシャルワーク＜＝生活の 中の 問題が うまくいくようにして、みんなが 幸せに 生活できるようにする 仕事＞の 専門の 知識を持つ人を 育てて、その人たちに よく 働いてもらいます。

ICT などを 使って、いろいろな 国の 言葉や「やさしい日本語」で 情報を 伝えること

外国語で 書いた「広報 はままつ」や、外国人のための ホームページ「カナル・ハママツ」などを 使って、浜松市が いろいろな 国の 言葉で 情報を 伝えます。タブレットなどの ICT や ソーシャル ネットワーキング サービスを 使って、お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるようにします。さらに、話す 相手が どんな国の人でも 分かりやすい「やさしい日本語」を 広めます。

(3) 地域で みんなが 一緒に 生活するのを 手伝います

地域の 問題が うまくいくように 考えたり、みんなが 一緒に 生活しやすくしたりします。

地域の 問題が うまくいくように 手伝ったり、情報を 教えたりすること

必要なときは、多文化共生センターから その地域に コーディネーターが 行きます。コーディネーターが 相談を 受けたり、問題が うまく いくように 手伝ったりする 地域共生モデル事業を 行います。多文化共生の 例を みんなに 教えたり、問題が うまくいくようにするために、地域共生自治会会議を 行います。この会議には 自治会の人たちが 参加します。

地域の ルールや、地域で 必ず しなければならないことを 教えること

外国人が 浜松市に 引っ越してきたとき、生活に 必要な 情報を いろいろな 国の言葉と「やさしい日本語」で 教えます。生活に 必要な 情報というのは、税金、ごみの 出し方、学校のこと、災害を 防ぐこと、自治会の 活動などです。地域で みんなが 必ず しなければならないこと、地域で 受けることが できる サービスなどの情報を いろいろな 国の 言葉で 進めます。

地域で お互いの 理解を 進める 仕事をする人を 育てて、その人たちに よく 働いてもらうこと

多文化共生のための ソーシャルワーク研修※などを 行って、外国人の 周りに起きる いろいろな 問題や 日本の ルールを よく 理解できるようにします。そして、違う 文化を 持つ人たちの グループと グループの 間を つなぐ人（ブリッジ・ビルダー※）を 育てます。

(4) 安心な 生活を 続けることが できるように します

外国人が 毎日の 生活や いろいろな ライフステージで 必要な 情報を 簡単に知ることが できるようにします。また、事件や 事故を 防ぐこと、安全な 交通のこと、日本の 会社で 働くことなどの 情報を 教えます。

いろいろな 情報や 相談できるところを 増やすこと
（ライフステージで 必要なこと・住むところ・病気や 病院のこと・子供を 育てることや 年を取ったときのこと・在留資格など）

年を取るまで 日本に 長く 住む 外国人が 増えたので、健康保険や 介護保険などに 入るように 教えます。そして、生活を 助けるための いろいろな サービスを使えることも 教えます。そのために いろいろな 国の 言葉で もっと 情報を 伝えたり 相談を 受けたりします。いろいろな ライフステージで 必要なこと・住むところ・病気や 病院のこと・子供を 育てることや 年を取ったときのこと・在留資格などの 情報や 相談です。

子育て 支援 ひろば＜＝おなかに 赤ちゃんがいる人や、2歳までの 子供と 親などが 交流する 場所＞で 通訳をして 交流を 手伝います。また、県や 市が つくった 住宅に 日本人と 外国人が 仲良く 住むために、問題が 起きたときは 手伝います。さらに、外国人の メンタルヘルス相談※を 受けたり、メンタルヘルスに 関係があることを 手伝う人を 育てます。

また、出入国在留管理局と 協力して、外国人の 在留資格の 相談も 受けます。

地域で 生活を 手伝ったりするところとの 協力

外国人や 多文化共生に 詳しい グループと、前から 地域で 生活が苦しい人や お年寄りなどを 手伝っている ところを つなぎます。その 協力の 関係を 強くして、外国人の 生活や いろいろな 問題を 手伝います。

安心な 生活のために いろいろな 情報を 教えること
（事件や 事故を 防ぐことや、安全な 交通のことなど）

外国人が 安心して 生活できるように、警察、消防、自治会、外国人のグループなどと 協力します。地域の 事件や 事故を 防ぐことや、安全な 交通のこと、急な 病気や けがなどで 救急車を 呼ぶことなどを 教えます。また、公共職業安定所や労働基準監督署と 協力して、外国人が 働いている 会社に 外国人を 雇うときの 条件や ルールなどを 教えます。

6 全部の 計画の 内容

※担当 部署＜＝その仕事を する課＞は、一番 多く その仕事をするところを 書きました。

1 お互いを 認めて、仲良く、一緒に つくる まち（協働）

No.	（やること）	（やっているところ）	（書いてあるページ）
(1) 浜松市 全体で 計画を 進めます			
1	多文化共生推進協議会を 行います	国際課	22
2	（公財）浜松国際交流協会の ネットワーク機能を 強くします	国際課	23
3	多文化共生の 社会を つくるために 頑張っている人や グループを みんなに 発表して 褒めます	国際課	23
4	多文化共生に 関係がある 良い 例を みんなに 知らせます	国際課	23
5	活躍する 外国人を 市の ホームページなどで 紹介します	国際課	23
(2) 多文化共生のための 教育を します			
6	国際理解教育や 言葉の 教育などを 行います	国際課 創造都市・文化振興課	23
7	ユニバーサルデザインについて 教育をしたり、研修をしたりします	国際課 UD・男女共同参画課	23
8	人権について 教育したり、研修をしたりします	国際課 福祉総務課(人権啓発センター)	23
(3) 交流する 機会を 増やして お互いに 理解できるように します			
9	多文化共生センターや 外国人学習支援センターなどで 多文化共生に 関係がある 交流イベントを 行います	国際課	24
10	自治会など、地域の 交流を 増やすために 手伝います	国際課 市民協働・地域政策課	24
11	違う 文化を 持つ人たちの 交流を 増やします	国際課	24
12	図書館で 外国人のための サービスを 増やします（外国語の 本を 増やすことなど）	中央図書館	24
(4) いろいろな 文化や 考え方がある 地域の 活動を 手伝います			
13	自治会についての 資料の 翻訳を 手伝います	国際課 市民協働・地域政策課	24
14	地域共生モデル事業を 行います	国際課 市民協働・地域政策課	24
15	外国人の グループや NPOなど 外国人を 手伝う グループとの 協力の 関係を 強くします	国際課	24

2　いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 新しい 文化や 役に立つことを つくる まち（創造）

No.	（やること）	（やっているところ）	（書いてあるページ）
(1)	これから 大人になる人たちを 育てたり、手伝ったり します		
16	子どもたちが 自然に 多文化共生の 考え方を 持つように 教育します。生きた 英語力 育成事業をします	国際課 指導課	25
17	外国人 子供教育支援推進事業をします	指導課	26
18	外国人の 子どもの 不就学ゼロ作戦事業をします	国際課 教育総務課、指導課	26
19	外国人学校 支援事業をします	国際課 次世代育成課	26
20	外国に ルーツを 持つ 若い 人たちの 進路や 仕事などについて 手伝います	国際課 産業振興課 指導課	26
(2)	いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って、新しい 文化や 役に立つことを つくる 活動を 手伝います		
21	文化や 芸術の イベントの 情報を たくさん 伝えて、外国人が 参加しやすくします	国際課 創造都市・文化振興課	26
22	いろいろな人が お互いの 文化を よく 知ることが できる イベントを 行います	国際課	27
23	二つの 計画を 一緒に 行って、一つを 行うより もっと 良くなるようにします。二つの 計画とは、創造都市事業と インターカルチュラル・シティプログラムです	国際課 創造都市・文化振興課	27
24	外国人が 自分たちの 文化を みんなに 知らせる 機会を つくります	国際課 創造都市・文化振興課	27
25	外国人が 新しいものを つくるために 計画したり 行ったりする 活動を 手伝います	国際課 創造都市・文化振興課	27
(3)	いろいろな 文化や 考え方の 良いところを 使って 地域を 元気に します		
26	「外国人 雇用サポートデスク」を やります。「外国人 雇用サポートデスク」は、浜松市の 会社と 外国人が 相談できるところです	国際課 産業振興課	27
27	「外国人材活躍宣言事業所認定制度」の 仕事をします	国際課	27
28	留学生が 浜松市の 会社で 働いたり、自分で 会社を つくったりするのを 手伝います	産業振興課	27
29	留学生と 浜松市の 会社が 働くために 話す 機会を つくります	産業振興課	27
30	働いている 外国人の 日本語の 勉強に かかる お金を 会社が 払っている場合は、その会社に お金を あげます	国際課	27
31	外国人 起業活動促進事業（スタートアップビザ）を 行います	スタートアップ推進課	28
32	はままつ 起業家 カフェで いろいろな 国の 言葉で 話します	産業振興課	28
(4)	他の まちや グループなどとの 協力を 進めます		
33	外国人 集住都市 会議に 参加して、国内の 多文化共生の まちとの 協力を 進めます	国際課	28
34	世界の インターカルチュラル・シティと 協力して、分かったことや 学んだことなどを お互いに 教えます	国際課	28

3　みんなが 気持ちよく 生活できる まち（安心）

No.	（やること）	（やっているところ）	（書いてあるページ）
(1)	大変なことが 起きたときのために 準備します（災害や 病気など）		
35	災害のときに いろいろな 国の 言葉で 手伝う 場所を つくって、管理します。	国際課 危機管理課	30
36	災害のときに いろいろな 国の 言葉で 外国人を 手伝う人を 育てます	国際課 危機管理課	30
37	いろいろな 文化や 考え方を 持つ人たちのための 防災訓練を 手伝います。いろいろな 場所に 行って 災害を 防ぐ 勉強会を 行うのを 手伝います	国際課 危機管理課	30
38	外国人の グループとの 協力の 関係を 強くして、外国人が 災害を 防ぐ 計画に 参加しやすくします	国際課 危機管理課	30
39	いろいろな 方法を 使って、いろいろな 国の 言葉で 緊急情報を 伝えます	国際課 危機管理課	30
40	いろいろな 国の 言葉で 緊急情報を 伝える 方法を しっかり 考えます	国際課 危機管理課	30
(2)	お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるように します		
41	外国人 学習支援センターで、日本語教室や、ボランティアを 育てる 勉強会を 行います	国際課	30
42	NPOなど 外国人を 手伝う グループと 協力して、外国人の 日本語の 勉強をしっかり 手伝います	国際課	30
43	市役所に 通訳をする人を 置いたり、多文化共生センターに いろいろな 国の 言葉で 相談できる人を 置いたりします	人事課 国際課	31
44	外国人の 困っていることを 手伝うために、ソーシャルワークの 専門の 知識を 持つ人を 育てて、その人たちに よく 働いてもらいます	国際課	31
45	外国語で 書いた「広報 はままつ」、外国人のための ホームページ「カナル・ハママツ」、タブレットなどの ICT、ソーシャル ネットワーキング サービスなどを 使って、お互いに 自分の 気持ちや 言いたいことを 伝えることが できるようにします	国際課 広聴広報課 UD・男女共同参画課	31
(3)	地域で みんなが 一緒に 生活するのを 手伝います		
46	地域共生モデル事業を 行います【No.14と 同じこと】	国際課 市民協働・地域政策課	31
47	地域共生自治会会議を 行います	国際課 市民協働・地域政策課	31
48	浜松市に 引っ越してくる 外国人に、生活で 必要な 情報を いろいろな 国の 言葉と「やさしい日本語」で 教えます	国際課	31
49	地域の ルールを 守ること、必ず しなければならないこと、権利などの 情報を いろいろな 国の 言葉で 教えます	国際課 廃棄物処理課、市民税課、国保年金課	31
50	地域や グループの 間を つないで、お互いの 理解を 進める人（ブリッジ・ビルダー）を 育てます	国際課	32
(4)	安心な 生活を 続けることが できるように します		
51	いろいろな 国の 言葉で 情報を 伝えたり、外国人が 相談できるようにしたりします。いろいろな ライフステージで 必要なこと・住むところ・病気や 病院のこと・子どもを 育てることや 年を取ったときのこと・在留資格などの 情報や 相談です	国際課、福祉総務課、高齢者福祉課、介護保険課、健康増進課、子育て支援課、幼児教育・保育課、産業課、住宅課	32
52	子育て 支援 ひろばで 通訳をして 交流を 手伝います	子育て支援課	32
53	外国人の メンタルヘルス相談を 受けたり、メンタルヘルスに 関係があることを 手伝う人を 育てます	精神保健福祉センター	32
54	前から 地域で 生活が 苦しい人や お年寄りなどを 手伝っている ところとの 協力の 関係を 強くして、外国人の 生活や いろいろな 問題を 手伝います	国際課、くらしのセンター、福祉総務課、高齢者福祉課、精神保健福祉センター、子育て支援課	32
55	事件や 事故を 防ぐことや、安全な 交通のこと、急な 病気や けがなどで 救急車を 呼ぶこと、会社が 外国人を 雇うときの ルールなどを 教えます	国際課 産業振興課、道路企画課、情報指令課	33

言葉の 説明　　※初めて 出てきた ページの 順番です

- SDGs（Sustainable Development Goals）【P.1・5・17】

  …2015年9月に 国連サミットで 決めた 世界の 目標です。2030年までに 世界中の いろいろな 問題が うまくいくようにして、ずっと 人間が 地球で 生活できるようにするという 目標です。

- やさしい日本語【P.4・7・19・30・31】

  …どの国の人にも 早く、正確に、簡単に 伝えることができるようにした 日本語です。難しい 言葉などを 分かりやすい 言葉に 換えた もの です。災害のとき、外国人に情報を 伝えるのに 便利です。

- Well-Being【P.5】

  …体も 心も 生活も 仕事も 幸せな 状態のことです。

- DX（デジタル・トランスフォーメーション）【P.6・16・21】

  …データと デジタルの 技術を 使って、仕事や 生活を 良くすることです。

- ICT（Information and Communication Technology）【P.6・19・31】

  …情報を やり取りする 技術です。情報に 関係がある 技術や サービスなどを まとめて ICT と 呼びます。

- 欧州評議会【P.14】

  …人権、民主主義＜＝みんなのことは、みんなで 話し合って 決めるという 考え方＞、法律が 大切だと 考えている ヨーロッパの 国が、みんなで 協力するために つくった グループです。フランス・ストラスブールに 本部が あります。日本は 1996年から 聞くだけの 国（意見などは 言わない）で 参加しています。

- インターカルチュラル・シティ（ICC：Intercultural Cities）【P.14・15・19・27・28】

  …いろいろな 文化が あると、まちが 元気になるし、新しいことが 生まれるし、成長することが できるという 考え方です。

- 自立した言語使用者【P.20】

  …「日本語 教育の 参照 枠」＜＝日本語が どのくらい できるか、6つの レベルに 分けて 見せているもの＞（文化庁が 2021年10月に つくりました）の B レベル（B1・B2）の人です。地域で 日本語を 教えるときは、B1 レベルになってほしいと 思って 教えます。B1 レベルは「仕事、学校、遊びのときに 話すような 普通の 話が だいた

い 分かる」ぐらいです。

- バイリンガル支援者【P.26】

…浜松市では、外国人の 児童や 生徒が 学校の 生活で 困らないように、バイリンガル（2 つの 国の 言葉を 話す人）が 手伝います。公立小中学校に バイリンガルの「外国人 児童 生徒 就学 支援員」を 置いたり、バイリンガルの「外国人 児童 生徒 就学 サポーター」が 行ったりします。

- ソーシャルネットワーキングサービス【P.26・31】

…SNS（Social Networking Service）のことです。
インターネットで 登録した人たちが 交流できる サービスです。友達や 近くに 住む人などが、お互いに 伝えたいことを 伝えるのに 使います。会社や グループなどの 商品や サービスを 紹介するのに 使うこともあります。

- 災害時外国人支援情報コーディネーター【P.19・30】

…災害のとき、役所などが 出す 情報を 整理して、外国人に 必要な 情報を 伝える 仕事です。総務省が 行う 研修を 受けなければなりません。

- エスニック・メディア【P.30】

…日本に 住む 外国人のために つくった 新聞・雑誌・ラジオ 番組・テレビ 番組・インターネットの サイトなどです。

- 多文化共生のためのソーシャルワーク研修【P.32】

…外国人の 周りで 起きる いろいろな 問題を よく 理解するための 研修です。
外国人の 相談を 受けたり 問題が うまくいくようにする人を 育てるために 行います。

- ブリッジ・ビルダー【P.32】

…違う 文化を 持つ人たちの グループと グループの間を つないで、問題が うまくいくようにする人です。その地域に 住んでいる人と 人の 間を つないで、仲良くなるようにします。

- メンタルヘルス相談【P.32】

…メンタル ヘルス（こころの 健康）を よく 知っている 専門の人を 置いて、相談を 受けたり、病院に ついて 行ったりします。

第3次浜松市多文化共生都市ビジョン

つくったところ　浜松市企画調整部国際課
〒430-8652　浜松市中区元城町103-2
TEL：053-457-2359　FAX：050-3730-1867
E-mail：kokusai@city.hamamatsu.shizuoka.jp
つくったとき　2023年3月